

■大木喬任 政治家。寡黙実行、篤実な人柄で、藩閥人事の均衡から佐賀藩を代表して要職についた。

おおきたかとう

鼠小僧磔・1832＝ 佐賀藩士大木知喬の長男として生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 5歳：

天保改革始・1841＝ 9歳：

阿部正弘首座1845＝13歳：

国定忠治磔・1850＝18歳：

嘉永年間、同藩士枝吉神陽の義祭同盟に参加、尊王論をととなえ、藩内改革を推進した。

ペリー来航・1853＝21歳：

安政の大獄・1859＝27歳：

桜田門外変・1860＝28歳：

明治維新・1868＝36歳：

\*維新後徴士として召され、参与職外国事務局判事となり、京都府判事、軍務官判事を経て、参与に再任される。この間、江藤新平と連署で東京奠都の意見を岩倉輔相に提出、その実現に努力し、東行決定とともに供奉を命ぜられ、以後東京に在勤、議事体裁取調御用掛となり、兼任のまま東京府知事となる。

戊辰戦争終・1869＝37歳：東京府大参事となり、一時権府知事となったがまもなく大参事に復する。

初の日刊新聞1870＝38歳：民部大輔、

廃藩置県・1871＝39歳：民部卿となったが、民部省が廃止され、文部卿に転じ、学制頒布など近代教育制度の確立に尽力。

明治6年政変 1873＝41歳：\*参議となり、司法卿を兼任。

三つの反乱・1876＝44歳：\_山口・熊本の乱には、平定後現地に出張して処分判決を行なう。

西南戦争・1877＝45歳：

..... 1880＝48歳：\_元老院議長を兼任、また民法編纂総裁として法典編纂にも尽力。

明治14年政変1881＝49歳：\_民権運動の高揚するなかで「乞定国体之疏」と題する憲法意見を提出し、立憲制を神代以来の日本の国体によって基礎づけるという国粹的解釈を試みる。政変直後兼官を辞任したが、ただちに司法卿を兼任、

岩倉具視没・1883＝51歳：文部卿に転じた。

秩父事件・1884＝52歳：華族令制定により伯爵を授けられた。

内閣発足・1885＝53歳：\_内閣制度の施行に伴い元老院議長に転出、

帝国大学始・1886＝54歳：

初の対等条約1888＝56歳：枢密顧問官、

帝国憲法発布1889＝57歳：\*枢密院議長となり、特に内閣に列した。

足尾鉍毒始・1891＝59歳：\_松方内閣の文部大臣、

大本教・1892＝60歳：\_辞任と同時に枢密院議長に再任されたが、まもなく辞任して府香間砥候となり、

日清戦争始・1894＝62歳：

日清戦争終・1895＝63歳：

Bushidou・1899＝67歳：\_没した。